

行政の効率化に努力

総合計画は9月に提案

昭和五十八年度の市政運営を決める『三月定例会市議会』が三月十二日開会、二十五日までの十四日間の日程で開かれました。冒頭、小笠原市長は、新年度当初予算及び各議案の提案理由に先立ち、次のように『施政方針』を述べました。

施政方針要旨

五十八年度は本市にとって、ジェット化時代を迎える画期的な年で、二十一世紀に向けて進むべき方向を見定め、本市の飛躍、発展に向けての第一歩を踏み出す

重要な年であることを認識し、意欲をもって市政の運営にあたる責務があると考えています。

▼財政

今後は自主的、総合的に行政を行うためには、財源の安定的な確保が望まれます。国、県への依存率の高い本市としては、国、県の財政状態の好転などを待つばかりではありませんが、同時に市自体も市税等歳入を見直し、合理化による経費の削減など、行政の効率的な運用を図る必要があります。

五十八年度一般会計の規模は、九十八億四千九百万円で、歳入では市税が約七・八割の伸びとなったものの、主要財源である地方交付税が約四・三割の落ち込みとなっています。

また公社負債については、市民の緊急やむを得ない要望に対応す

るため、投資的予算も計上しなければなりませんので、当初は五千万円としました。今後の推移で、上積みすることも考えています。

▼総合計画

資料の収集、分析に予想外の時間がかかり、大幅に遅れて申し訳なく思っています。

基本構想については原案ができ、基本計画もほぼ完成しています。現在、行政計画、農業計画など少しを残すのみとなり、また実施計画は、各課から今後十年間の事業計画を提出してもらい、基本計画の原案ができ次第、これらを整理作成をしていきます。遅くとも九月議会に提案したいと思っています。

▼空港

本体工事はもとより、周辺整備事業、民家防音工事は予定どおり進行しています。

ジェット化に伴う企業誘致は、長期的な展望に立つて財政負担にたえる範囲内で、企業者側に魅力がある工業団地の造成をはかる必要があると考え、検討中です。

また、付加価値の高い臨空産業の育成を課題として、関係機関と協力し取り組んでいきます。

▼同和

現在進めている小集落整備事業

は、時限立法の関係もあり期限内の完了を目指していきます。この事業の大きな問題は、土地の取得であり今後も地域住民と理解を深め、事業の促進と期限内完成に向けて努力していく考えです。

▼教育

今や中学生による校内暴力事件は、大きな社会問題となっており、今後は、学校と家庭、地域社会が連携を強化し、積極的に取り組んでいかなければなりません。

学校建築については、空港拡張に関連する香長中学校、大篠小学校の改修のほか、十市、稲生小学校の建築を予定しています。

歴史民俗資料館は、条件的にも本市が最も適地と考えられ、田村遺跡、国府遺跡保存と合わせて、誘致に向けて強力に働きかけていきます。

▼し尿処理

現在、県道のし尿処理場の一部を手直しし、複合ラグーン方式で一定の効果を上げています。しかし、いつまでもこれに依存することは考えられず、早く近代的な処理場の建設が望まれています。

最大の難関は場所の問題ですが、事業の重要性を考え、早期着工に向けて総力をあげ努力します。

新年度の施政方針を述べる小笠原市長



し尿処理場
建設問題

またも白紙に

不祥事件で庁内体制を再検討

執行部答弁

三月定例会市議会での一般質問は十六日から十八日までの三日間行われ、小沢、竹内、井上、岡崎、溝渕(正)、島崎、今井、森尾、高島、松木、門田、岡林、島内、中屋、堀川の各議員が、市長の政治姿勢、汚職事件、し尿処理場、財政などの問題について、執行部の考えをたどりました。執行部の答弁のあらましは次のとおり。

○財政は厳しい状態だが、借金も払いつつ、市民の要求にもこたえていかなければならない。財政破たんはしていないし、財政再建も放棄していない。

○財政再建はスローテンポだが、あまり再建にこだわりすぎると行政が委縮する心配がある。当初予算に五千万円しか計上できなかった開発公社への支払いは、今後でできるだけ増額できるよう努力する。

○普通高校(五十九年春開校予定)の誘致が、市民や議会の協力で岡豊町中島沖に実現することになった。通学バスの運行は、後免から「医大乗り入れ」との声もある中で、普通高校ができれば有利な材料になると思う。

○大湊小の防音対策については、運輸省の取り上げ決定があったわ

けではないので、今後強力に取り組んでいく。

○保育所の改築は、財政事情が許す限り取り組む。改築計画は①大篠②稲生③十市……の順だ。十市保育所はパークタウンのからみもあり、移転先を早く決めなければならぬ。

○五十八年度の保育所の入所は、千五百八十六人の希望者に対し千五百六十八人を入所させた。(入所率九四%)最近では出生率の低下で、定員に足らない保育所が出てきている。公立乳児保育所の開設希望もあるが、既設の施設で対応する方法を考えている。

○大篠保育所と明見保育所の統合問題は、明見の園児が減少している。市としては統合を考えている。大篠保育所の改築をひかえ

今後地元へも話を進めていく。○片山地区へのし尿処理場建設問題は、三月十日に白紙撤回した。過去の生ゴミ投棄、不燃物の埋め立てで迷惑をかけているなど、不手際を認める。

地下水の汚染など、地元が心配していることについては実態調査をする。内容は、埋立て地内のボーリングを四カ所くらい行い、地層別に水質と土質を調べる。

○恒久施設の建設地は、より広範な立場で見ますが、単独設置に変わりはない。

○黒滝し尿処理場の複合ラグーン方式によるし尿処理は、一応の成果を取っており、その施設を買い取ることにした。水質はかなり浄化され浸透もよいので、新処理場ができるまでは急場をしのげると思う。

○不祥事件にかかる行政処分は、警察の捜査を参考に、本人から事情聴取して事実関係を確認の上行った。

○不祥事件に関連して市長の責任

が軽いとのことだが、問題は首長として、今後「良心的行政で償い、再発防止に努める」ことだ。

庁内のあり方、指導については①職員の自覚を促し、事あることに注意する②財務規則の整備を急ぎ、行政組織についても再検討する③職員の研修など、資質の向上に努める④工事契約等は建設省の基準を参考に見直しをする⑤学校の建築にかかる市長部局の権限を教育委員会に移管できないか検討する⑥工事指名業者(随契も含む)の選定方法は、庁内で審議会を作り改善策を取る(原則指名競争入札とする)⑦工事の中間検査は原則として行わないこととする。

○小集落地区改良事業は、用地交渉の難行で五十七年度予算六億二千八百万円を五十八年度に繰越すことになった。時限立法の期限内にすべて完了すために、遅れを心配している。特に①土地境界②住宅の相続③登記などの問題が生じているが、持ち家制度(分譲地を基本とし、直面する問題の一つ一つ取り組んでいきたい。

○市長、市議選の公営ポスター掲示板の設置については、①財政上の問題②場所の問題がある。少なくとも四十人分の大きなものが必要で、一千万円の経費がかかるようなので、今後の課題にしたい。

○市長、市議の同時選挙は、過去

の衆参ダブル選挙などの例で見ると、無効票が増えている傾向にあり、経費の節減もあるが、選挙管理委員会としては、同時選挙は避けるべきだと考えている。

○海岸地帯の保安林下の土地は、市町村合併による承継財産で、市が所有管理をしている。不法建築物の問題については県とも協議し、違法なことは正しくするよう直ちにに取り組む。方法は、関係者に払い下げを行うことが理想だと思

○庁内へのコンピュータ導入は、五十八年度導入をめざして先進地視察なども行って検討してきたが、財政再建の犠牲になって当初予算に計上できなかった。今後、事務の簡素化に努めるため、内部協議を深めていく。

○中小企業大学校が、既に本市の比江山に来るとしても先の話だ。地元負担があれば、財政事情から辞退すべきだとの声もあるが、県政の方針もあるので、今結論を出すのは早すぎると思う。

○医大周辺(小湊地区)の都市計画は、雪写真を作成中だ。大小二案があり、前者は約三十五億円、後者はその半分くらいの事業規模となる。現在、測量を完了、基礎的な作業が進んできたので、組合設立(土地区画整理組合)地元が事業主体)に向けて地元理解を得るよう進めている。